

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和2年3月26日(2020.3.26)

【公開番号】特開2018-143554(P2018-143554A)

【公開日】平成30年9月20日(2018.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2018-036

【出願番号】特願2017-42455(P2017-42455)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028 (2006.01)

A 6 1 B 3/032 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/02 A

A 6 1 B 3/02 C

【手続補正書】

【提出日】令和2年2月17日(2020.2.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼に視標光束を投影する投光光学系と、

前記視標光束の像を光学的に所定の検査距離となるように前記被検眼に導光する固定光学部材と、

前記投光光学系の光路中にあって、前記被検眼の光学特性を変化させる矯正光学系と、を備え、

前記被検眼の光学特性を自覚的に測定する自覚式検眼装置であって、

前記投光光学系を収納する測定ユニットと、

前記測定ユニットの位置情報を取得する位置情報取得手段と、

前記位置情報に基づいて、前記被検眼に投影される前記視標光束の投影倍率を補正するための補正量を設定する補正量設定手段と、

前記補正量設定手段によって設定された前記補正量に基づいて、前記視標光束の投影倍率を補正する補正手段と、

を備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項2】

請求項1の自覚式検眼装置において、

前記被検眼と前記投光光学系の瞳共役位置との距離を検出する検出手段と、

前記検出手段による検出結果に基づいて、光軸方向における前記測定ユニットの位置を調整する調整手段と、

を備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項3】

請求項1又は2の自覚式検眼装置において、

前記投光光学系はディスプレイを有し、前記ディスプレイに視標が表示されることで前記視標光束が出射され、

前記補正手段は、前記補正量に基づいて、前記ディスプレイに表示される前記視標のサイズを変更することで前記視標光束の投影倍率を補正することを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項 4】

請求項 1 又は 2 の自覚式検眼装置において、
前記投光光学系の光路において移動可能な光学部材と、
前記光学部材を前記投光光学系の光路において移動させる駆動手段と、
を備え、
前記補正手段は、前記補正量に基づいて、前記駆動手段を制御して前記光学部材を移動
させることで前記視標光束の投影倍率を補正することを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項 5】

被検眼に視標光束を投影する投光光学系と、前記視標光束の像を光学的に所定の検査距
離となるように前記被検眼に導光する固定光学部材と、前記投光光学系の光路中にあって
、前記被検眼の光学特性を変化させる矯正光学系と、を備え、前記被検眼の光学特性を自
覚的に測定するための自覚式検眼装置において用いられる自覚式検眼プログラムであって
、前記自覚式検眼装置のプロセッサによって実行されることで、
前記投光光学系を収納する測定ユニットの位置情報を取得する位置情報取得ステップと
、
前記位置情報に基づいて、前記被検眼に投影される前記視標光束の投影倍率を補正する
ための補正量を設定する補正量設定ステップと、
前記補正量設定ステップによって設定された前記補正量に基づいて、前記視標光束の投
影倍率を補正する補正ステップと、
を前記自覚式検眼装置に実行させることを特徴とする自覚式検眼プログラム。